

たかやま林業・建設業協同組合

林建協働により高山地域の森林整備・木材生産を加速化

～たかやま林業・建設業協同組合の発足～



事業方針

飛騨高山地域（白川村含む）は、森林面積が235,000haと林野率が93%を占め、民有林は135,000haと岐阜県の約2割を占める地域である。

この広大な森林を適正に管理し、地球温暖化防止に貢献するとともに、豊富な資源を有効に活用するため、地域の建設業者と飛騨高山森林組合の協働によって、森林施業の集約化を行い、高性能林業機械の活用と地域に合った路網整備による低コスト木材生産システムの確立を目指す。

取り組みのねらい

◆先導性・モデル性

森林組合との協調のもと、建設業の業界単位での林業への本格参画は全国初の取り組みであり、建設業の複業化推進に向けたモデル事業となりうる。

◆相乗効果

地域全体の森林計画を、森林組合と建設業が協働作業で取り組み、地域全体の計画的な森林整備・木材生産体制を確立する。

◆雇用安定・地域再生

飛騨高山地域において、地域の森林管理不足の課題と建設業者の雇用確保の課題を、これまで連携のなかった林業と建設業が積極的な協働を行い、ビジネスモデルとして確立させることで、建設業労働者の林業分野での雇用促進を図り、飛騨高山地域の資源である木材生産の促進等により、地域の再生（経済効果の発生）を図る。

★成果

- ・建設業のノウハウを生かした従来とは異なる壊れにくい作業道の構築
- ・安全に関する能力を林業へ浸透
- ・多機能な森林に対する取組の推進
- ・新たな作業システムの構築　ホイール系機械の活用

組 合 組 織

① 役 員

理事長	大山土木株式会社	代表取締役	大山 龍彦
副理事長	飛騨高山森林組合	筆頭理事 (前代表理事組合 長)	内木 彦治
副理事長	株式会社林工務店	代表取締役	林 俊宏
専務理事	株式会社長瀬土建	代表取締役	長瀬 雅彦

他理事15名・監事2名

② 組合員

大山土木株式会社	飛騨高山森林組合	株式会社林工務店
株式会社長瀬土建	株式会社新井組	株式会社杉建
有限会社中田土建	株式会社水口土建	株式会社小坂建設
株式会社青木組	高橋建設株式会社	株式会社塩屋建設工業
森本建設株式会社	沢田建設株式会社	小坂建設株式会社
橋本建設株式会社	有限会社下仲組	株式会社南組
株式会社井上工務店		

- ③ 所在地 〒506-0052 高山市下岡本町2344番地6 (高山建設産業会館内)
TEL : 0577-57-8890 FAX : 0577-57-8891
E-mail : info@takayama-rinken.com
http://www.takayama-rinken.com

- ④ 出資形態 協同組合
- ⑤ 出資者 建設会社18社と飛騨高山森林組合
- ⑥ 出資額 950万円 (50万円19社)
- ⑦ 設 立 平成22年1月28日
事業開始 平成22年4月1日



林建協働への取り組み

事業実績	作業道整備関連事業		森林整備関連事業		集約化関連事業		素材生産量
	延長	事業量	面積	事業量	面積	事業量	
	m	千円	ha	千円	ha	千円	
H26	12,989	204,201	30	22,055	105	3,452	2,627
H27	7,638	171,253	68	18,940	99	5,544	1,637
H28	5,680	129,140	54	20,604	80	643	2,772
H29	8,341	133,514	128	46,221	24	517	4,982
H30	8,752	208,415	67	28,869	33	554	4,046
R1(計画)	7,910	187,507	60	24,253	20	460	4,010

主な事業地

- ・高山市清見町夏厩地内 健全で豊かな森林づくりプロジェクト夏厩林建協働団地
- ・高山市内森林経営計画団地（上宝町、国府町、丹生川町、大島町、荘川町、一之宮町、久々野町、朝日町、高根町）他

取り組みの実績

- ・岐阜県主催ドイツフォレスター研修会の共催、岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムの協力
- ・林業先進国ドイツ、スイス林業視察
- ・欧州型作業道（作業道における工法）の実践
- ・将来木施業（間伐における選木方法）の実践
- ・植樹、外来種駆除等ボランティア活動
- ・地元高校生現場見学会協力、指導 他



今後の取り組み

- ・欧州型林業のモデル林構築と普及活動
- ・森林環境に配慮した作業道開設及び間伐実施
- ・建設業者の森林施業プランナー等の人材育成 他

林業における課題

森林づくりに対する基本的な考え方の見直しが必要

<ドイツフォレスターからの指摘「日本の林業は欧州から50年遅れている」>

①道の重要性を認識すべき

- ・広域にわたる路網計画と将来にわたり安定した路体の作業道構築
- ・人工林間伐区域に限定せず森林の多面的機能を有効活用できる路網計画
- ・地形や地理条件に合わせた柔軟な規格による作業道開設
- ・作業道が森林整備の附帯事業との認識を改めインフラとして整備

②持続可能な資源として認識すべき

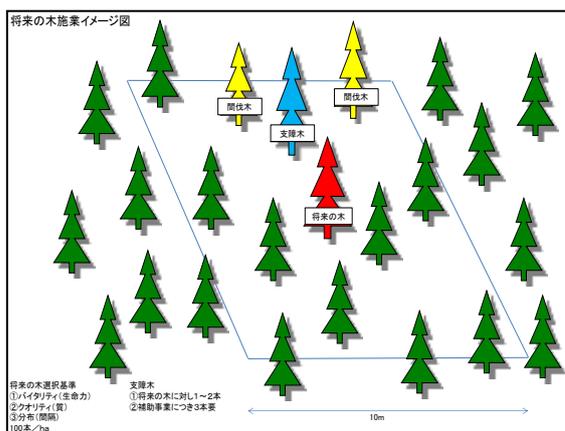
- ・定性間伐による画一的な形態を改め集団安定性と個体安定性を連携させた森林づくり
- ・天然更新を誘発させた手法による長期循環型の森林づくり
- ・天然広葉樹林の適正な保全による有用樹林化



生態系配慮型 排水構造物



多機能な森林道



将来木施業イメージ図



将来木施業実践地



欧州型作業道イメージ図



欧州型作業道伊西3号線



欧州型作業道滝ヶ洞線



地元高校生現場見学会